

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

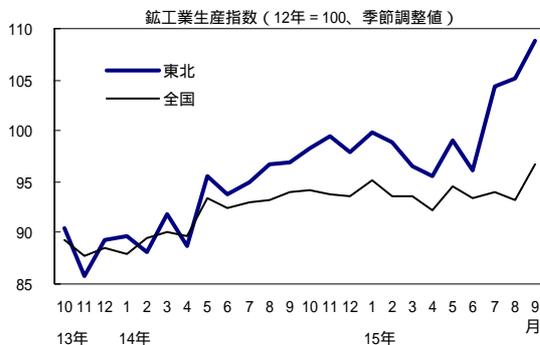
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 8 月)	今回 (平成 15 年 11 月)	
景況判断	やや弱含み	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加	
個人消費	やや弱含み	弱含み	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイス、トランス、コンデンサなどの増加により7月に大きく増加し、その後も高水準で推移したことから、3四半期連続の増加となった。食料品・たばこは、7月に冷凍水産食品などの増加から、2か月ぶりに増加に転じ、四半期でみても4四半期ぶりの増加となった。情報通信機械は、7月に携帯電話・PHSなどで前月比で2けたの増加を示し、9月にも自動車用音響機器などにより再び2けた増となったことから、3四半期ぶりに増加した。一般機械は、9月に産業用ロボット、半導体製造装置などにより増加し、3四半期ぶりに増加した。電気機械は、8、9月と2か月連続で減少したものの、7月に非標準変圧器などにより前月比で増加していたことから、四半期ではプラスに転じた。



(備考) 平成 15 年 9 月の東北は速報値。

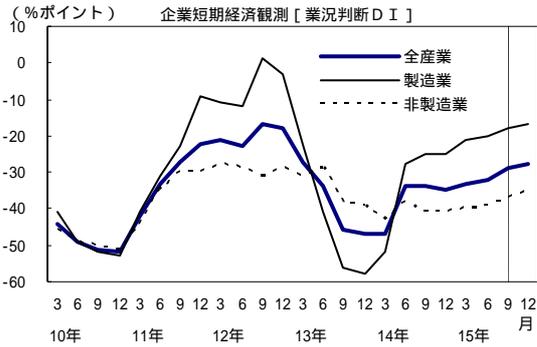
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	19.3	6.1	19.7	9.3	11.2
食料品・たばこ	12.9	1.2	4.4	2.3	5.7
情報通信機械	11.6	9.0	20.2	32.8	130.8
一般機械	8.6	15.1	13.1	16.7	16.5
電気機械	5.8	2.0	5.9	10.6	50.1
鉱工業	100.0	1.6	9.5	8.4	8.9

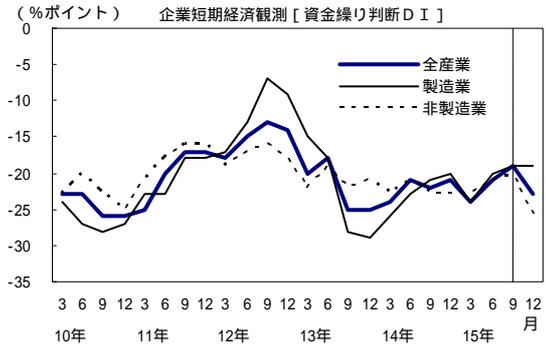
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

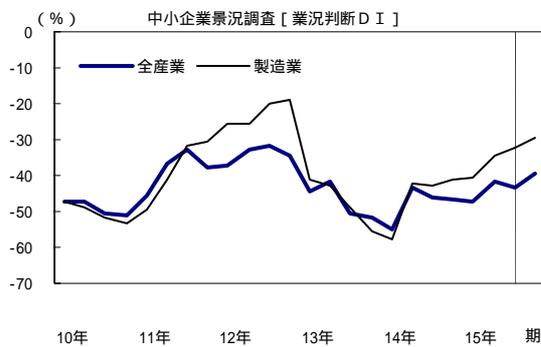
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「キャンペーンを実施しているが、計画より遅れ気味である。しかし、低価格商品の動きがそこそこあり、トータルでは計画数量を確保できる見込みである (食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

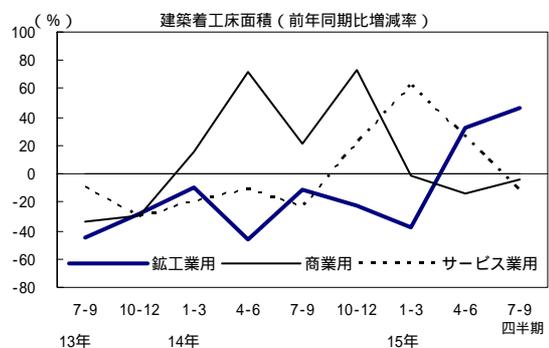
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	11.6	18.8(7.9)
製造業	17.8	29.8(11.0)
非製造業	4.8	9.4(4.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

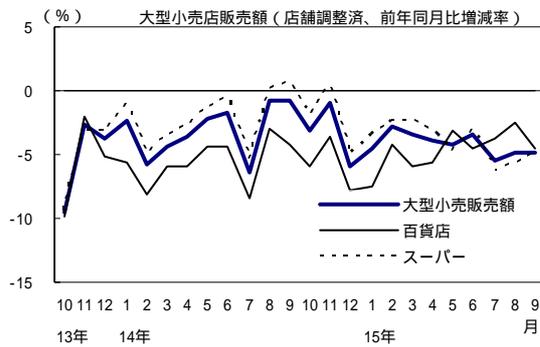
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は主力の衣料品が低温の影響から前年を下回り、8月も夏物衣料が振るわなかった。9月には、秋物衣料が低調であったことから、全体でみても、引き続き前年を下回っている。

スーパーは、主力の飲食料品については、生鮮食品、冷菓等が振るわず、身の回り品や家庭用品も低調だったことから、前年比でみた減少幅が拡大した。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

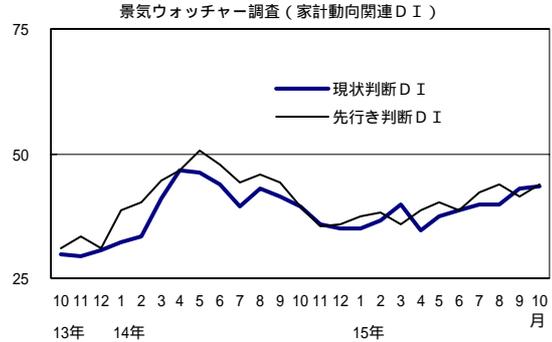
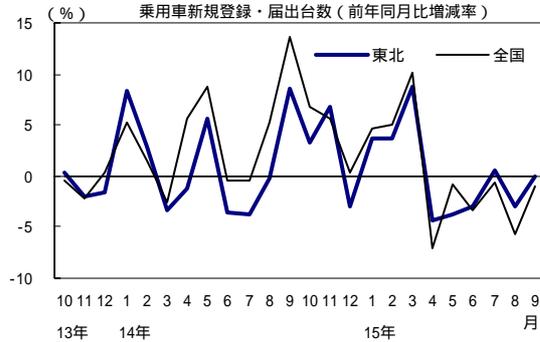
「一部の米の値上がり等で売上は増加している部分もあるが、特殊事情を除くと基本的には客の消費動向、日々の買い物の仕方等については全く変化はなく、特に景気が良くなっているとか、消費傾向がプラスになっているような気配は見られない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.6	3.7	3.9	5.1
百貨店	6.0	6.1	4.4	3.6
スーパー	2.4	2.7	3.6	5.6
乗用車	2.5	6.3	3.7	0.6
景気ウォッチャー	36.8	37.1	37.0	40.9

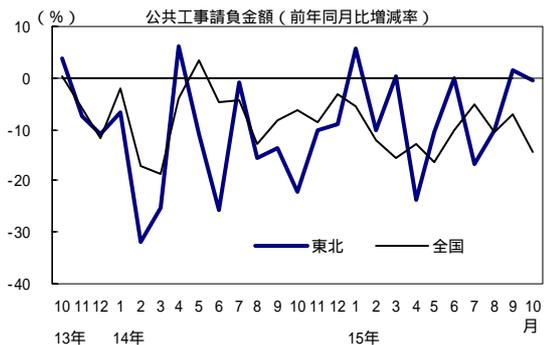
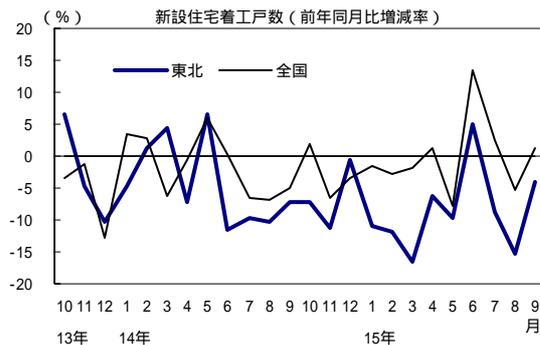
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家はおおむね横ばいだったものの、貸家が引き続き大きく減少していることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

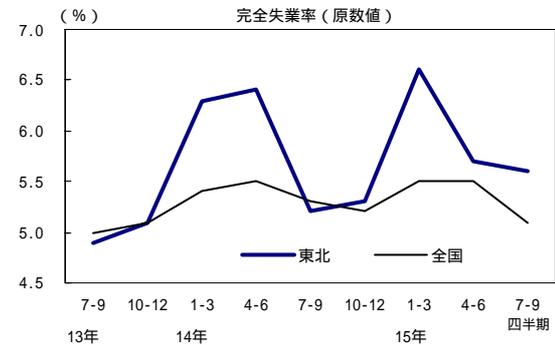
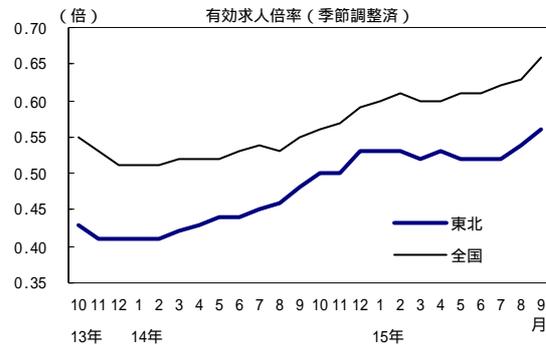


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

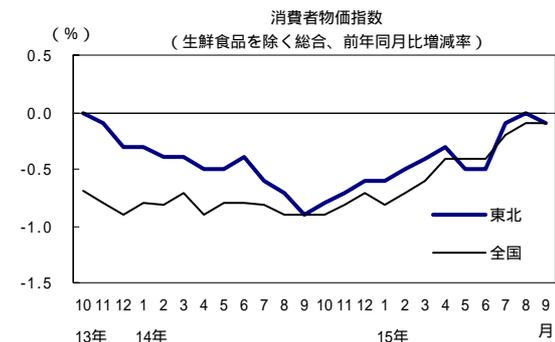
「新規求人数は前年同月比で増加を続けているものの、その内容は派遣や請負関連とパート、臨時などのいわゆる非正規型の求人の比率が高くなっている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	377	329	307	291	95
(前年比)	2.1	18.2	23.1	20.5	31.2
負債総額	2,097	1,545	1,511	1,379	434
(前年比)	80.5	5.7	10.1	7.6	67.7



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・同じ旅行をするならば、日程を変えてでもパッケージを利用するような動きが目立つ (旅行代理店)

<先行き>

・地震と冷夏による米の不作などで、例年申込のある忘年会や農業関係者の旅行申込がほとんど無い。

特に顧客数の多い地域での連続地震の影響は大きい (観光型旅館)。

